



人妻を
催眠状態にして
下品な恰好を
観賞する

基本CG7枚＋おまけ2枚
差分含む合計59枚

俺は催眠アプリなるものを手に入れてから
いい女を見つけては好き放題やってきた。

今日は近所で目をつけていた人妻を狙いにやってきた。
日中、旦那は仕事で外出することも確認済みだ。

ピンポーン

「はい。」

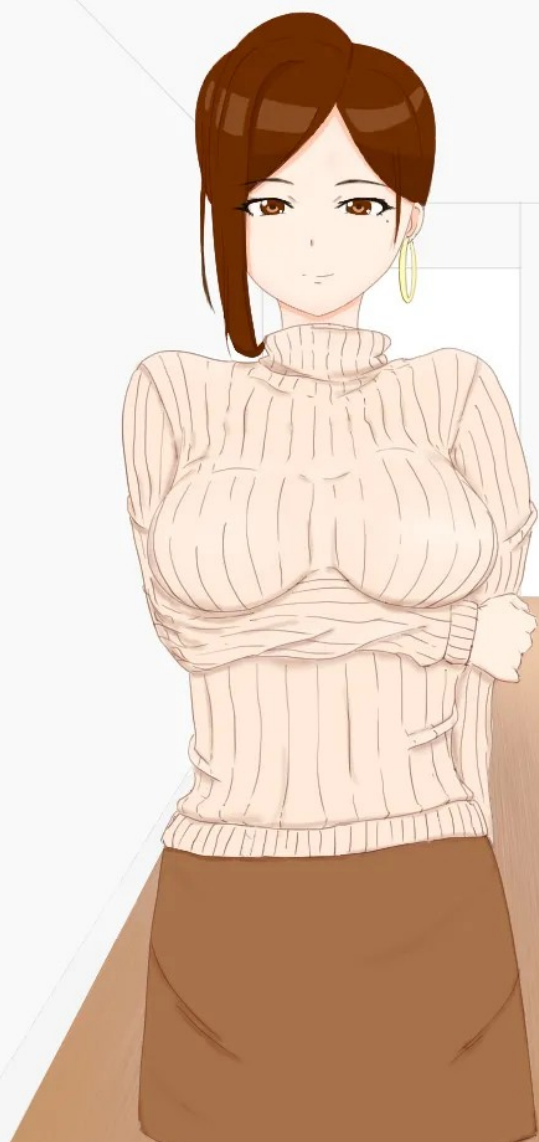
「こんにちはー、〇〇郵便でーす
お荷物をお持ちしましたー。」

(旦那が何か注文してたのかしら?)

ガチャ

扉が開かれると、豊満な人妻が現れた。

(近くで見るとますますいい女だな。
さっそく催眠にかかってもらおうか♪)



「最初にこちらにサインをお願いをお願いします。」

(最近はスマホにサインするのもあるのね…。)

「いいですか…ん?」

提示されたスマホ画面には、起動された催眠アプリが映っており、それを見た人妻は、一瞬意識が飛んだ。



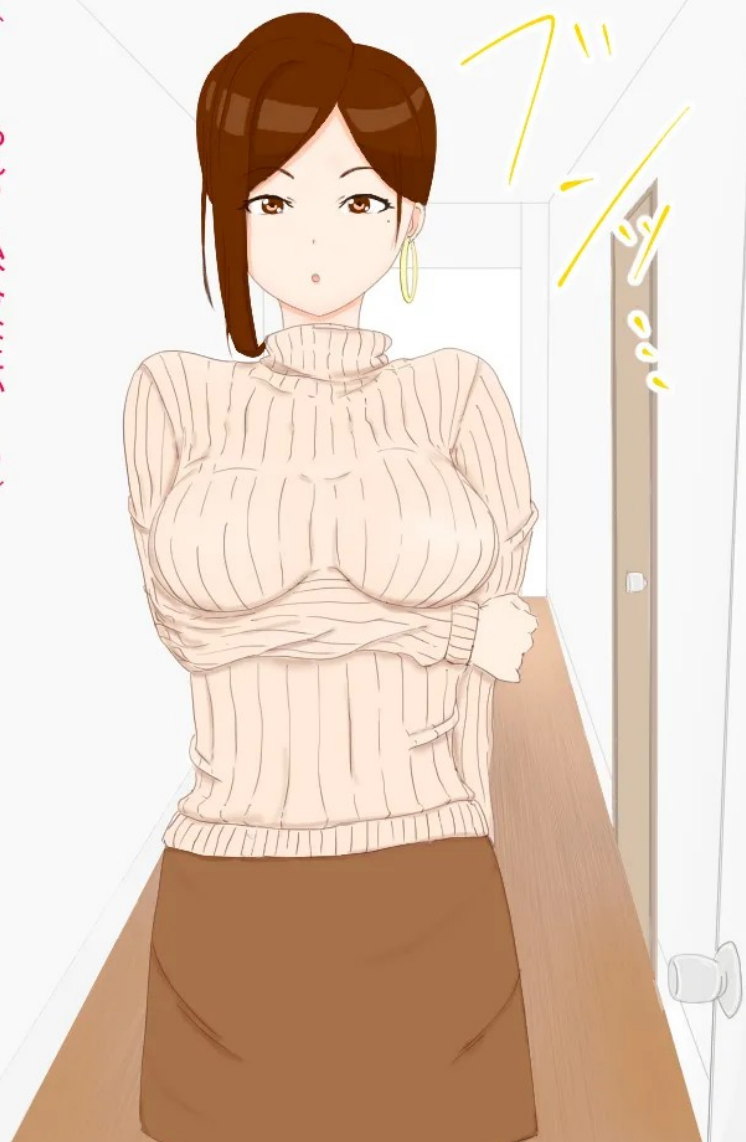
(……あれ? 私、今なにか……?)

「よし……かかったな。じゃあまずは、名前とスリーサイズを言ってもらおうか。」

(……何言ってるのこの人!!)

「三郷あや、29歳です……
スリーサイズは上から、92、85、90です。」

(えっ……なんで?! 体の言うことが聞かない!!)



「よし、服をめくって見せろ。」

(いや！ なんなのこの男！)

心の中では抵抗するも、
あやは言われた通りに上着をめくり、ブラジャー姿を晒す。

「へっ、たまんねえな。」

アッ



「今度はブラジャーも外しておっぱいを見せろ。」

(見ず知らずの男なんかに…)

躊躇することなくブラジャーを外し、見知らぬ男に巨乳を晒す。
催眠状態でも恥ずかしさを感じているのか、頬が少しあかくなった。



「エロい体しやがって…。さーて、楽しませてもらうぜ。」

「そのまま足を広げて、パンツを見せてもらおうか。」

(この変態……どこまで要求つもりなの……)

あやは玄関先でおっぱい丸出しのままM字開脚状態になる。



「いいね…：我慢できねえ。よし、パンツも脱げ。」

(?! そんなの絶対いや!)

あやは、命令された通り服を着たままパンツを脱ぎ、
恥部を見せるよう開脚を続ける。

カア…

スアア…

「御開帳〜」

(知らない男に大事なところを晒すなんて…っ)



「次は、スカートも取れ」

(この男の命令に抵抗できない…いやっ)

言われるままに下半身を丸出しの状態にあるあや。



「上着だけ残すつてもエロいなあ…。
催眠状態でも意識はあるから、それが逆にそそるぜ。」

(催眠!! あの時のスマホね…!!)

「よし、じゃあ次は全裸になれ。」

躊躇なく全裸になるあや

「玄関で生まれたままの姿を、見ず知らずの男に晒しやがって。
いい体してんなあ…へっっ」

(こんなところで、こんな格好するなんて…。)

男はあやの全裸姿をまじまじと眺め続ける。



男はひとしきりあやを眺め終わると、あやを連れて家の中に入っていく。

「次はもつと下品なところを晒してもらおうか。
脇を見せながら、がに股になれ。」

(そんな恰好なんて……!)

あやは言われた通りの恰好になる。

(こんな姿、旦那にも見せたことないのに……!)



「いいぞ。そのままおっぱいも揺らしてみろ。」

あやは言われるがまま、自分の巨乳を振り始めた。
乳房は下品に伸びながら踊るように舞う。

(うううう...恥ずかしい...。)



「こんな綺麗な人妻の下品な格好見れるなんて、催眠様様だぜ。」

おっぱいは下品に左右に揺れ続け、男を楽しませる。

(こんなみじめな恰好…早く終わって…)



「さーて、次はもっと恥ずかしい恰好してもらおうか。」

男はテーブルの上に乗るよう指示する。

「じゃあ、尻を突き出して
肛門を晒しながらアピールしてみろ。」

(いやあ……)

グ
イ
ッ

ビ
ク
ビ
ク

「私の……夫以外に見せたことのない、
お尻の穴をじっくりと見てください……。」

あやはそう言うと、自分で尻を広げ、肛門を男に見せつける。

「へっ……しわの数を数えられるくらいはつきり見えるぜ。」



「なんて下品な恰好だ。
…せっかくだから少し遊んでみるか。」

そう言う男はキッチンにあったニンジンをあやの肛門に挿入し始めた。

(お尻にこんなもの入れるなんて…いやあ…。)

初めての感覚に震えるあや。
肛門にニンジンが差し込まれた姿は、
さらに男を興奮させた。



男はそのまま二ンジンを挿入していく。

「すっぽり入っちゃったぜ。意外とこっちの才能があるんじゃないのか？奥さん」



葉っぱだけが肛門から出る恰好になり、一層下品な姿になる。

(恥ずかしくて、おかしくなりそう……もういや……。)

心とは裏腹に、男に醜態を見せ続けるあや。

「そろそろ我慢できなくなってきたぜ。こっち来い」

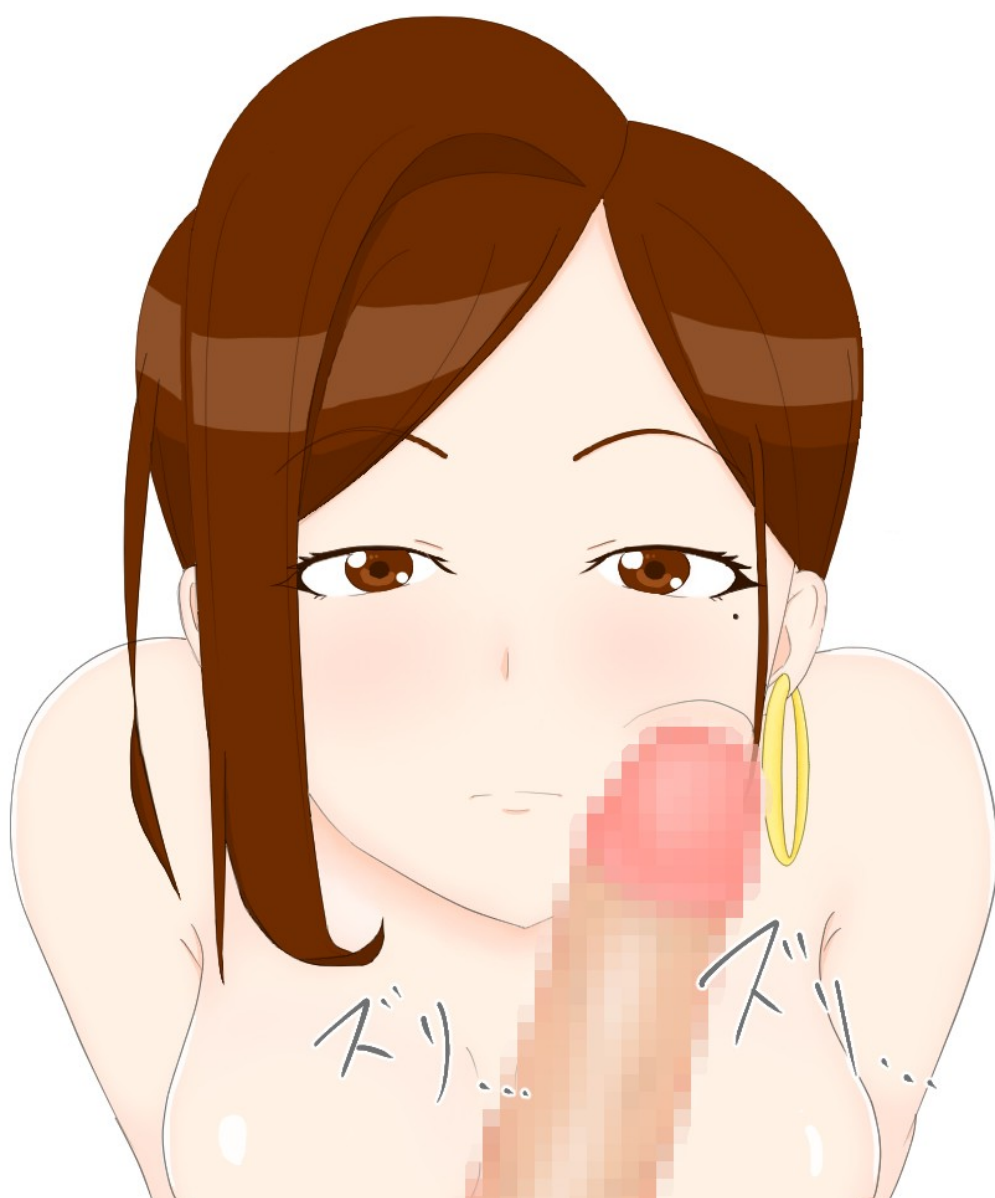
(うう…抵抗できない…。)

男は自分の股間に顔が来るようアヤを座らせる。



男は自分のモノを露出し、あやの顔に押し付ける。

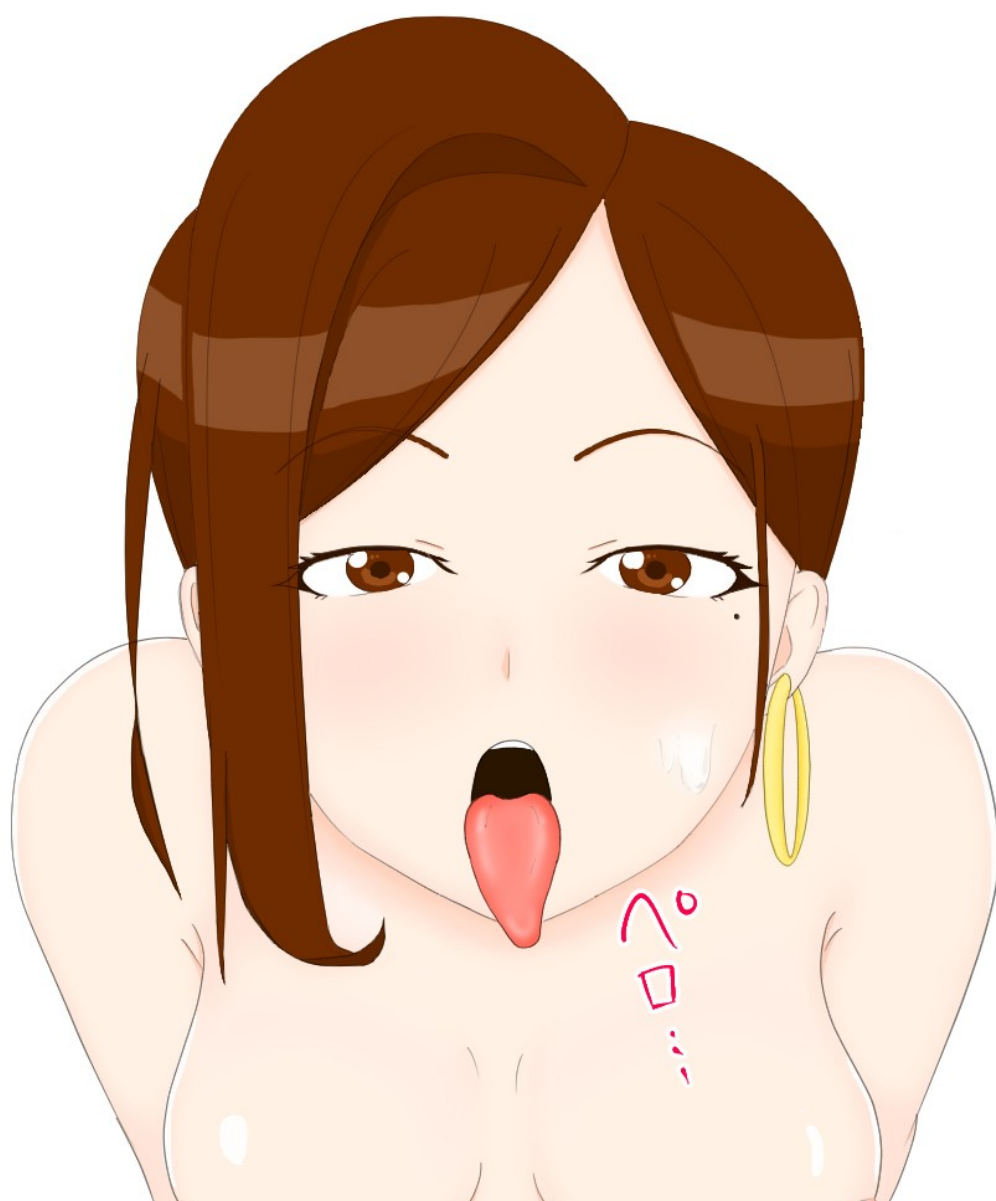
「知らない人妻の頬擦り……たまんねえ。」



(うう……臭い。気持ち悪い……)

あやは抵抗できず、無表情のまま、男のモノを擦り続けられる。

「よし、へっぴり出せ。」馳走してやるぜ。」
だらしなく舌を伸ばすあや



「よし、舐めろ。舌先をうまく使えよ。」

あやは言われるがまま、男のモノを舐め始める。

(こんな男のを舐めるなんて…。)
(ううう…臭いし、苦い。)



「いいぞ。今度は思いっきり吸ってみろ。」

あやは口をすぼめ、舌を絡めせながらバキュームのように吸い始める。

「鼻の下が伸びて下品な面になってるぞ。旦那に見せてやりてえな。」

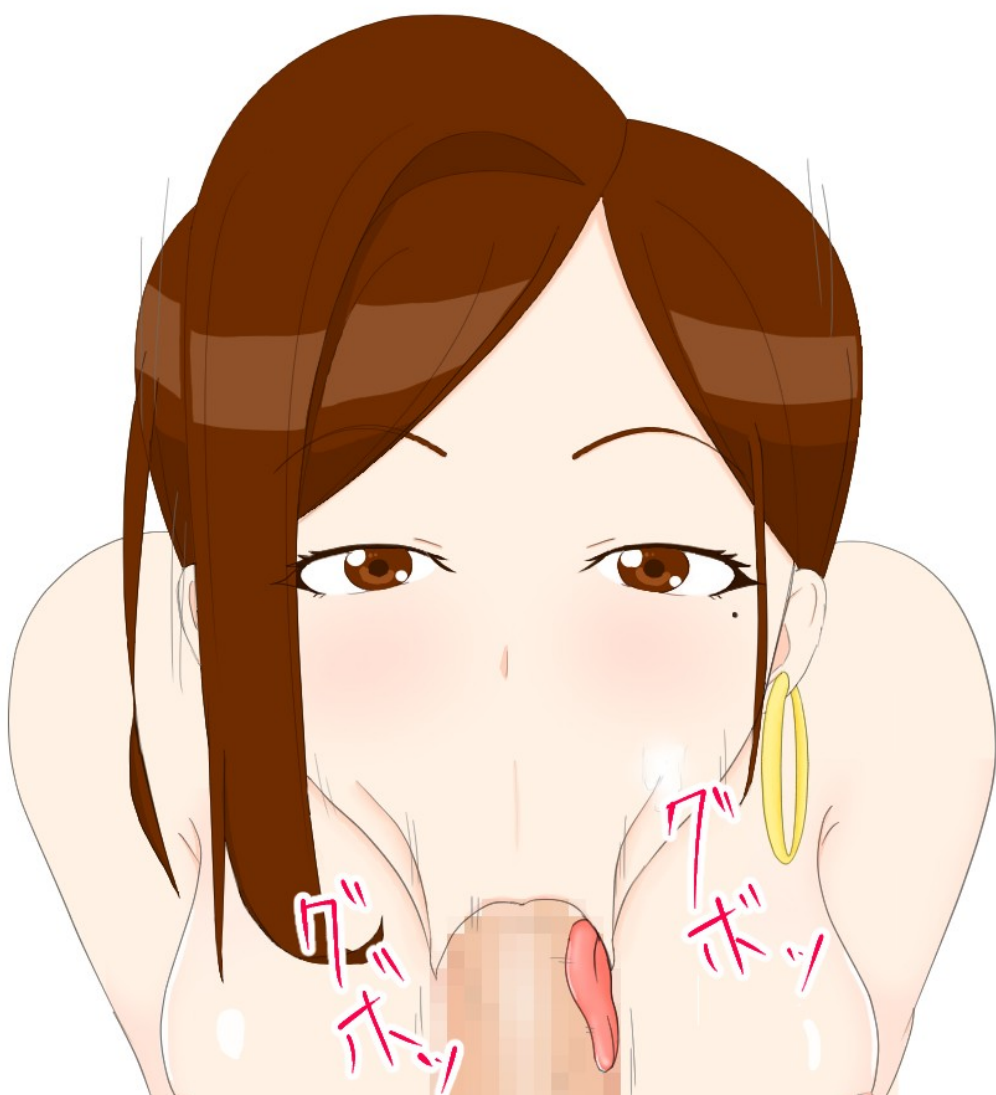


(いやあ、こんな顔を他人に見られるなんて…)

下品な音が部屋に広がる。

「あゝ気持ちいいぜ。旦那にもこんな顔して喜ばせてんのか？」

（そんな訳ないじゃない！　いつまで続けるのよ……！）



口が伸び、ひよつとこのような顔を晒しながら
男のモノを咥え続ける。

「我慢できねえ……！ 出すぞ！」

男はあやの口内に勢いよく射精する

(うっ……！)



「なんだ？目がイって嬉しそうじゃねえか。
とんだ変態女だぜ。」

(え？私そんな顔してるの……？ もう嫌……！)

この状況を受け入れたくないあやだったが、男の要求は続いていく。

男はあやを連れ、ベッドルームに移動する。

「よし、ベッドの上に乗ってガニ股になってもらおうか。」

ガニ

あやは言われた通り、夫と愛を育んでいるベッドの上で
股を開き、下品なポーズになる。

（いいで……またこんな恰好させられるなんて……）



「いい恰好だな。よし、俺の上に乗って、入れろ。」

(いやあ……入れたくない……。)

思いとは裏腹に、あやは上にまたがり、男のモノを自分で挿入するあや



「……いいぞお。もっと下品なポーズで腰を振れ。」

あやは表情を変えないまま、両手をピースにし、腰を打ち付ける。

(んん……恥ずかしい……。)

おっぱいを揺らしながら男の上で腰を打ち続ける。

「でか乳揺らしながら、見ず知らずの男のチ○コを啜えるなんて
恥ずかしいねえ…今どんな気持ちか言ってみる。」

「とても…恥ずかしいです。
でも少し気持ちいい、かも…んっ……!!」
(?! 私、何言ってるの?!)

「へっ……こんな状況なのに感じやがって。」



「うっ…出るっ…」

男は容赦なく、あやの膣内で射精する

(うっっっ…中に出されてる…。
妊娠しちゃう…。)

「あゝ気持ちよかったぜ
まだまだ気持ちよくしてやるからな
こっちに尻向けろや。」

(まだ続くの…？もう嫌あ…。)

嫌がるのも空しく、男にお尻を向けるあや



「入れてやるからそのまま動くなよ。」

男は後ろから容赦なく挿入する。
ずんずん

「中はぬるぬるで簡単に入っていくぞ。あゝあつたけえ。」
(ああっ…入ってくる…)



男は自分本位で好き放題後ろから付きまくる。
「こりやもうただのオナホだな。」

(オナホって…夫以外に、しかもこんな扱いされるなんて…。
でも…ああ、気持ちいい…。)

屈辱的だが、あやは少しづつ感じ始めていた。

「こっからだぞ！」

男は物を扱うように、あやの子宮口をめがけ、更に腰を激しく打ち付け始める。

「んんっ……」

(やつ、激しい……！)

「へっ、声が漏れてるぞ！我慢できなくなってるじゃねえか？」

腰の動きに連動して、あやのおっぱいも激しく揺れ動く。
「こんなに伸ばして、だらしない乳晒しやがって。」

(ああっ……こんな乱暴にされているの、なんで感じちゃうの……！)

あやは、抵抗できずに好き放題にされる自分の姿を思い、さらに興奮してしまっていた。



「もう我慢できねえ……！
しっかり奥で受け止めるよ！」

(奥で膨らんでる……いやっ……！)

3発目の射精を子宮で受け止めるあや。

「アへ顔晒しやがって。よっぽど気持ちよかったか？」

(ああ……私汚されちゃったわ、ごめんなさい、あなた……。)

「あゝ気持ちよかった。いいオナホ具合だったぜ。
また今度使わせてもらうから、その時はよろしくな、あや」



(予告)

この度はご購入いただきまして、ありがとうございました。

次回作は、勝気な風紀委員長が弱みを握られ仕方なく、

風俗落ちする内容の予定です。



この子がマジックミラー越しに客が要望してくる

ポーズを強いられていきます。

このような下品なシーンを
多数ご用意します。

7月発売予定ですので、
よろしければ御覧ください。



